

■児童・生徒の学力の状況

- 令和6年度全国学力・学習状況調査の平均正答率が国語は0.2ポイント、数学は0.5ポイントと全国のそれと比較して低い。
- 都の意識調査によると約8割の生徒が、学習する理由の質問に「分かるようになりたいから」と回答しており、生徒の学習意欲はあるが、正答率と結び付いていない。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
※「読み解く力」の育成を踏まえて

- 授業のまとめやふりかえりでOutputするだけにとどまらず、指導者がOutputの内容を十分に評価していく必要がある。
- 教科書を用いた授業を徹底し、生徒自身が日常的に教科書を使って自分で学習できるように指導をしていく必要がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- 学習指導要領の実施に基づき、主体的・対話的で深い学びの視点から、各教科等における資質・能力を育成し、指導と評価の一体化を図る。
- 一人一台端末を用いた個別最適な学び協働的な学びの充実を図り、主体的に学習を調整する力の育成を図る。
- 「板橋区授業スタンダード」の徹底とともに、「読み解く力」における6つの視点の認識・思考・表現という学習の流れを重視し、確かな学力の定着・向上を図る。
- 学校教育に馴染めない生徒への学びの機会を保障し、家庭と関係機関との連携を図り、社会的に自律することをめざした生徒の育成を図る。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
○授業のめあて（共書き）とOutput（書く・発表する）の徹底 ○自分の言葉で言語化しOutputした内容の評価。	○教科書を用いた読み解く力の6つの視点のうち、イメージ同定と具体例同定に焦点化した授業展開の定着 ○読み解く力を意識した研究授業の実施や学びのエリア研修の設定及び視察校への授業公開	○身近な地域の実態を捉え、地域探訪や職場体験を通して、未来の地域づくりに向けた取組等の実施

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○iカリキュラム活用実践校として、年間3回の研究授業を設定し、研究授業の取組について、学びのエリアの先生方にとどまらず、区内の先生方とも協議会で検討を行い、授業改善を行う。	○身近な地域の課題を捉え、生徒が課題解決に向けて主体的に学習に取り組むとともに、SDGsと関連付けながら未来の地域づくりについて継続的・計画的に探究を深めていく取組を行う。	○タブレットを使った単元別テスト等のCBTの利用拡大を図るとともに、生徒自身が学習方法を自ら調整することによって、個に応じた学びの充実を図る。 ○課題解決に向けて、タブレットを利用しながら、他者とともに協働的な学びの実践を図る。